

KTK
NO.97

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



季節を感じながら



いろいろな外活動を覗いてみると、のびのびと過ごしているみんなの様子がうかがえます。室内活動とはまた違った表情を見せてくれています。

ひまわり生産にむけて大原野ハウスで土づくりをしたり、長岡天満宮へキリシマツツジを見に行ったり、それぞれが季節を感じられる活動に参加しています。

頑張る強い心で



～木の葉のゆれ、やわらかな風の中、自立のあゆみ

拓也さんは37歳。お家は向日市です。あらぐさではBグループで、牛乳パックで和紙の葉書等を作っています。外出も大好きです。西山体育館で杖で歩いたりしています。

おいたち ～誕生の頃



拓也さんは5人きょうだいの三番目で、姉、兄、妹、弟の中で育ちました。生まれは京都府綾部市。ダウン症で知的障害に加え一人で歩けない、耳が聞こえない重複障害をもっていました。お母さんは、産声をあげない、お乳がうまく飲めない、特徴ある顔つき…と、お父さんに泣きながら電話をしました。「こんなに可愛い顔をしているのにお母さんは何を言っているの。ちっともおかしくないじゃないか。なあ、拓也」とニコニコ顔であやすお父さんに、お母さんは励まされました。生後5日目に小児科の先生より、ダウン症といわれました。

～保育所の中で



小児科の先生の勧めで1歳9か月より保育所に入所しました。この保育所生活は、あかちゃん体操や階段登りを毎日させて必死に頑張っていたお母さんにとって、ほっとできる場所になりました。御飯には手がでなかった拓也さんが、おにぎりを一人で食べはじめたり、象さんのまねをして手を振る姿を見たりして、お母さんは集団保育のすばらしさに感動しました。

～聾学校、そして養護学校へ



府立病院で高度難聴と診断され、聾学校舞鶴分校幼稚部に1年間だけ通いました。毎日母子通園して

いましたが、お母さんの妊娠に伴い2学期から寄宿舎生活をするようになって、拓也さんと担任のA先生とのマンツーマンの運動機能訓練に力が入りました。3学期には、補聴器の耳型を手に乗せてもらうと自分で付け、1時間ほど付けていられるようにもなりました。拓也さんの可能性を信じて見出ししてくれた若い教師の熱心なとりくみに、ご両親とも「すごい」となるばかりでした。



和紙の葉書作りをとりくむ拓也さん

しかし、親・教師の願いは、拓也さんと同じような集団の中で楽しく遊んだり歩いたりしてほしいという事でした。お母さん自身も、同じ障害をもつ親の集団の中に入りたいという願いがあり、中丹養護学校へ入学しました。スクールバスからニコニコ顔で降りてくる毎日……一步一步前へ進んだ頃でした。トイレが自立し、お母さんはもう一つ目標だった歩くということ、一生懸命にとりくみました。登下校に手つなぎで歩いたり、妹の保育園への送り迎えには大きな乳母車を使い、拓也さんが押して歩くようにしました。小学部4年生の時向日市へ転居し、向日が丘養護学校へ通いました。毎日の運動機能訓練で、松葉杖で歩くことを学びました。何度も座り込んで歩きの繰り返しでしたが、だんだんと歩く

力がつきました。学校を終えた3時過ぎ、毎日バス停から300m～松葉杖で1時間半歩きました。お母さんは、笑顔で頭をなでて励ますことや何年かかっても頑張る強い心を、拓也さんに教えられました。

親と離れての生活



拓也さんを大きく成長させたのは親と離れての生活です。向日が丘養護学校中学・高等部の時、股関節脱臼の手術のため滋賀県小児こども医療センターで3回（合計6か月半）の入院生活をしました。3回目の時は車いすで自由に動けたので、ひとりで車いすで病室を出て探索。エレベーターのボタンを押し乗り込んだこともありました。食事時は人手が足りず、皆が食べる前に全部食べ終えていることに驚きました。



いろいろの職員さんと

高等部2年の時には、1年間の寄宿舎生活を体験しました。企業就職を目標とする仲間の中での生活でした。拓也さんが食事時一足先に食べ始めると、「拓ちゃんあかん」とストップをかけてくれ、皆の様子を見て待つ事を覚えていきました。ソファに彼らとともに座ってテレビを見、同じ仲間として生活できたことがうれしかったです。拓也さんの教室にも遊びに来てくれ、拓也さんも仲間のクラスに車いすで行ったら授業中で、何度も行くのでしかられたほどでした。家にも遊びに来てくれ、お父さんもニコニコでした。

今はいろいろの生活です。4棟あるケアホームの1つ「ききょう棟」の2階で、男子3人の共同生活。

個室でヘルパーさんがいて、いき届き、同じダウン症のお兄さんに仲良くしてもらっています。男性世話人さんは料理上手で、今1週間5泊の生活を頑張っています。これらの親と離れての共同生活…自分中心の生活から仲間の中での生活で、拓也さんは成長してきました。

歩くこと



歩くことはいつも生活の中で大事にしてきました。学校卒業後、あらぐさに通所。自宅周りは住宅が建ち並び車が増え、安全な道は短くなっていますが、何度も中断されながら頑張って歩いています。2年ほど前、杖を投げだし歩けなくなった時、あらぐさ、いろいろ、家と連携しダイエットにとりくみ成功。今はスリムになり、木の葉の揺れを見ながら、地域の方の「頑張れ」の声かけを受け、堂々と歩いています。

好きなこと



拓也さんは自然が好きです。音は聞こえないけど、木の葉のゆれ、やわらかな風を感じるのが大好きです。車いすを自走し、好きなところへ行きたいのです。

もう一つ、小さい頃からずっと好きなのが巾着です。巾着のひもを食卓でお茶の中に入れ水滴を垂らしていた時、お父さんは「拓也の芸術だ。やらせたらいい。」と言い、お母さんは遊びと食は別と思い、それでは絵画教室へと10年通いました。お絵かきが大好きになり、ぐるぐるいっぱい描きました。いろいろ入所で卒業しましたが、もっとしたかったそうです。

<お母さんから>

今まで拓也の成長にかかわってくださった方々に感謝します。そして皆様のあらぐさへのご支援ありがとうございます。これからも親子で頑張ります。

（取材：前田幸子 真殿尊子 坂下佳子）

とっておきの一枚

お花見



4月、満開になった桜を見て、お花見をしたいね、とみんな
で計画しました。紅茶やお菓子を持ち寄り、Aグループ、
Bグループで合同のお花見をしました。



桜の下にブルーシートを敷き、テーブルを置き…いつもと違う雰囲気になんと笑顔の利用者さん達です。

ウクレレの伴奏に合わせて歌ったり、紅茶やお菓子を食べたり、お話をして楽しんだり、それぞれ好きなことをしてゆったりと過ごしました。

暖かい日差しを浴びて、利用者さんから「背中気持ちいい！」と自然に一言。春の訪れを心から満喫しているようでした。

日常の中でこうして季節の移り変わりを感ぜたり、みんなで楽しさを分かち合える、ちょっと特別な時間も大切にしていきたいと思えます。



きょうされん京都支部総会に参加しました

ディセンタ-2 鞍貫 聡史

きょうされん京都支部総会が5月13日、14日の2日間にわたって行われました。京都府のきょうされん加盟事業所の職員や、利用者とその家族ら170人の代議員を含む、約400人の参加者で開催されました。

初日は、まず栗津支部長の挨拶から始まり、来賓席からは京都府健康福祉部障害者支援課の南課長、生協の川村副理事長、山添与謝野町長から、今の障害者をめぐる情勢について話をされました。その後、基調報告、2016年度のまとめ、2017年度の活動計画、2016年度決算、2017年度予算、質疑討論が行われました。

基調報告ではきょうされん40年の歴史を映像と共に伝えていただき、障害者の生活や雇用の権利が保障されていなかった時代から、きょうされんの運動によって、共同作業所づくり運動が野火のごとく広がっていったこと、障害者施策の改革を訴え声をあげてきたことが分かり、改めてきょうされんとして団結することの凄さや、訴えていくことの意味、大切さを感じることができました。

2018年には障害者総合支援法や、介護保険法の改正、報酬改定が行われる年となり、大きな変革が行われると言われています。また、「地域共生社会」と銘打って公的責任を丸投げするような仕組みも進められています。そんな2018年にきょうされん全国大会が京都で行われます。その意味はとて大きく、団結して国に訴えていく必要があると確認し合いました。

討論の時間は、二日間にわたって行われ、新しく開所された作業所の紹介や、移転問題で苦しんでい

る作業所、精神保健福祉法に対する訴え、地域と繋がりが農福連携を進めている作業所の実践といった様々な発言がありました。制度の矛盾に振り回される作業所の姿、心だけでは繋げられない現場での苦悩が心に刺さりました。

2日目の記念講演では、来年の全国大会で実行委員長を務めていただく、弁護士の尾藤廣喜さんから話を聞かせていただきました。弁護士になられる以前は厚生省で生活保護を担当されていたこともあり、生活保護裁判をたくさん経験されたそうです。生活保護裁判から見えた社会の実態や課題、今後どのような制度や社会が求められるのかを考えさせられました。生活保護基準の引き下げをこのまま進めないように、生活困窮者の声を拾い上げ、訴えていかなければと思います。

「**我が事・丸ごと**」**地域共生社会**については、「当事者の声が反映されていない上からの制度なのでは」「財政削減ありきの制度ではないのか」「障害福祉と介護保険との統合は介護保険優先を原則化することを前提にしているのでは」とおっしゃっていました。国会で十分な議論もされないまま進行していくことには本当に怖さを感じます。

情勢ではあまり明るい話がない中で、支部総会に集まったみなさんからは笑顔がたくさん見られました。現地の人達の製品を見たり買ったり、ウェルカムカレーを食べたりと、活気に溢れていて、元気をもらえました。障害があってもなくてもあたりまえに働き選べる暮らしを目指して、力を合わせて運動していきたいと改めて感じた2日間でした。

ケアホームいろどり 職員

岡崎 伸宏 さん



こんにちは！

あらぐさ福祉会 ケアホームいろどり ききょう棟担当の岡崎です。今年でいろどりに関わり3年目になりました。

小学生の頃同級生の弟が障害を持っていたり、現在の私の趣味で遊ぶ場所は路上生活者の生活圏内でもあり、その中に障害をもっているであろう方を見かけました。

そういった境遇や知見が高齢福祉の求人が多い中、障害福祉であるケアホームいろどりの求人に結びつき、あらぐさ福祉会で働くきっかけとなりました。他事業所やサポートセンターあらぐさから利用

者の余暇活動である外出支援を通して、乙訓地域では制度が有るものの支援者の数が足りず要望に応えられない現実を肌と感じました。これを問題意識ととらえ近江商人心得の「三方よし」を参考に「利用者(ご家族)よし・支援者よし・世間よし」を理想に支援にあたれればと思います。

あらぐさ福祉会に来て、3年ほどで、まだまだわからないことがたくさんあり、不慣れなところもありますが、利用者さん・家族の方・職員・関係者のみなさんと一緒に、ぼちぼちいけたらいいなと思います。これからもよろしくお願ひします。

製品紹介

はらぺこポチ袋

Aグループ



今回紹介するのはAグループで作っている「はらぺこポチ袋」です。

ポチ袋はお金を渡す時はもちろん、ちょっとしたメッセージを入れて渡しても、相手への心遣いが伝わります。また、カードなどの小物入れとして使うとカバンの中もすっきりしてとても便利です。

野菜スタンプの活動で、レモンやピーマンなどの匂いや感触を感じながらスタンプ。その柄のどれもが可愛らしく、気持ちを和ませてくれます。Aグループの自慢の一品、是非一度お手にとってみてください。

今年度の法人の取組み

おかげさまで共同作業所あらぐさが発足して32年目、法人施設障害福祉センターあらぐさ開設から13年目を迎えることができました。いつもご支援いただきまことにありがとうございます。

利用者の皆さんの日々の支援の向上に努めるとともに、次のことさらに取り組みます。

1 地域の皆さんとともに

毎回たくさんの市民の皆さんにお越しいただいている、作品展「創〜えがおの手しごと展」やフェルト作品展「奇蹟的羊」を開催します。また冬には「カタログ」販売にも取り組みます。利用者さんの個性ある作品や製品作り、花などの生産を通して、市民の皆さんとの交流を深めてまいります。

2 職員の確保・育成、施設の拡充・整備

よりよい支援をすすめていくうえで、必要な職員を確保することに毎年苦勞しております。

福祉の仕事が「やりたい仕事」、あらぐさが「働きたい職場」として広がるよう、実践の議論を深め、労働条件の改善にも努めてまいります。

手狭になった、障害福祉センターの活動室を拡張するため、重度重複障害の方たちのグループの活動室を増築します。

3 法人の役割や在り方

社会福祉法が改正されたため、法人の定款を変更しました。これまで諮問機関であった評議員会を議決機関とし、理事会を業務執行機関としました。財務についても、これまで以上に透明なものになるよう努めます。

また、次期事業計画を策定するために、利用者・家族の状況、地域のニーズの把握に取り組みます。



あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

敬称略 順不同 平成29年1月1日～3月31日

東俊明 池澤翔 池田直生 井古テル子 和泉昇
一鬼美紀 伊藤まどか 井上はる奈 岩本浩之
大槻昭 大橋祐子 岡田茂和 NPO 法人 乙訓介護サービス
乙訓手をつなぐ親の会 勝山 廣美 金原医院金達龍
川北幸代 川畑榮子 河邊文昭 後藤邦子
小林健 近藤真由美 佐名木直子 椎谷和子
白石直子 新免富美子 鈴木麻予 鈴木伶奈
すずき内科クリニック鈴木 元 専修院福本哲了
高橋祐子 竹下誠

田中久美 田中誠一 谷早苗 田村光春 中谷ちよみ
夏川久子 西川茂 西林喜代美 日本基督教団西が丘教会
野間知津子 波多由紀子 服部源 馬場美由紀
原田正雄 ぱんだ企画 福山八千代 別府哲
松本美津男 南弘一 南 やすこ
森大樹 矢澤治 矢島弘之 安井吉子 安田弘
山本周一 横川和男 横川喜美江 吉永安昌
吉永和中 匿名 9名

2017年度 あらぐさ後援会

後援会費納入とあらぐさ支援募金のお願い

後援会の更新の時期となりました。後援会費納入と支援募金をよろしく
お願いします。あらぐさ募金は、あらぐさ福祉会がすすめる「暮らし
の場」づくりの施設整備を恒常的に支援することを目的にしています。
昨年度は283 個人・団体様より844,666円が寄せられました。

あらぐさ後援会	個人	1口	1,000円
	団体	1口	2,000円
あらぐさ支援募金		1口	1,000円



- *同封の振込用紙をご利用ください。
- *納入済みの方には振込用紙を同封していません。入金と行き違いになりました
際はご容赦ください。
- *後援会費、支援募金には「KTK あらぐさ通信」紙代が含まれています。

1992年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 2017年6月22日発行
KTK増刊通巻第4599号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町 519 京都社会福祉会館4階
京都障病棟内 発行人 高谷修 頒価50円(購読料は会費に含まれています)

KTK
あらぐさ通信